



クローズアップ
CLOSE UP

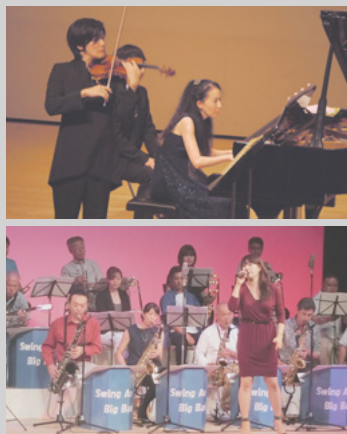
糸が紡いだ縁の世界

8月27日と28日にシルクサミットを開催。本市から製糸技術が伝わった愛知県や熊本県などから関係者を招いての意見交換、下村初代市長の子孫で元宝塚歌劇団の真丘奈央さんの歌唱などが行われました。桑茶の提供もあり会場は糸の世界に包まれました。



若者目線で市政を語る

山本市長と県内の高校生団体が市政を語り合うタウンミーティングを、8月24日に開催しました。高校生は「街中に中高生の居場所を」と提案。山本市長は「皆さんの夢を応援できる街にしたい」と話し、前橋を元気にするためのアイデアを交換しました。



音楽が人を動かす

9月2日から4日まで、前橋まちなか音楽祭を開催。ロックやジャズ、邦楽、クラシックなど、多彩なジャンルの音楽が街を満たしました。

本市ゆかりのROGUEや成田達輝さんなど、実力のあるアーティストの演奏は、街中に新たな人の流れを生み出しました。

サッカーの試合中、ピッチ外に出たボールを拾ったり、選手にボールを渡したりするボールパーソン。ザスパクサツ群馬の試合でその指導をしている川島さんは、10年以上前からザスパのサポーター。チームへの熱い気持ちだが、この活動のきっかけになった。「ザスパは決して恵まれたチームではないんです。だから、サポーターの私たちに何かできることはないかと。そんなときにボールパーソン指導の話を持ち、これだと思っただけでした」

ボールパーソンは県内の高校生が務める。「裏方ですが16人それぞれに役割がある。試合を円滑に進めるための大切な仕事です」

高校生活に指導をする時に必ず言っていることがある。「なんだ裏方か、と思う高校生もいます。でも、裏方がいってこそ試合は成り立つ。選手と直接ボールのやりとりができるのは君たち16人だけ。そう声を掛けるとみんなの目の色が変わります」

「服部監督とは同学年。陰ながら応援していたから、監督になってくれてうれしい」

そう笑顔で話す川島さんのスケジュール帳は、ザスパ関連の予定でびっしり。この熱い思いで群馬のサッカーをさらに盛り上げていく。

いきいき
まえばし人
川島 功さん・45歳
ボールパーソンを指導
文京町四丁目



チームを支える裏方の熱い思い

vol.03
ART STORY
広がるアーツ前橋

前橋での光のアートは今年で3年目を迎えます。通い詰めて3年。僕の活動拠点は京都ですが、前橋駅に着くと、知らない場所に仕事にきたというより、帰ってきたと思うくらい。老若男女、友達の顔が浮かびます。そのきっかけがアーツ前橋。ここがハブになり、前橋のまちと人にアクセスできました。アーツ前橋にとってアーツ前橋はそんな貴重な場所です。

ところで、私たちのまちって何でしょう。まちとは建築物や道路だけではなく、人々の暮らしたと思えます。しかし、時には自分たちがまちの主人公であることを忘れてしまう。「まちってもっと使ってもいいんだね。そうなったら楽しいな」。そんな思いで、今年も前橋に光の作品を届けます。



光の作品をみんなに体感してほしいです、と高橋さん

前橋45DAYSのオープニングでは、無線でシンクロするLEDちようちんを持った500人の市民が共にまちを練り歩きます。一人一人が手に持った光が集まり、つながり、ひとときの光景を出現させることで、まちの主人公は人々の見え方が変われば、そこに住む人も変わるはず。アーツに触れた後のまちや人は、それまでと少し違う道を歩み始めるかもしれません。

第3回はアーティストの高橋匡太さんが、前橋45DAYS（本紙11ページ）に関連し、まちとアートについて語ります。

アーツ前橋
027-230-1144